



# 五加の学び舎

千曲市立五加小学校  
学校だよりNO.10  
R6.10.11(金)

## 10月校長講話 「ぼく モグラ キツネ 馬」

～「自分も幸せ みんなも幸せ」になるために・・・「助けて」と言える関係づくりを～

10月3日(木)の校長講話では、「ぼく モグラ キツネ 馬」という本の紹介がありました。子どもたちの振り返りを紹介します。

- 私が心に残ったことは、馬が男の子に「今までにいちばん勇気を出して言った言葉は？」と聞かれたときに、「助けて」と言ったことが、びっくりしました。でも、よく考えると、「助けて」という言葉は、勇気がいると思いました。私は人に助けを求めたり、悩みをうまく言えなかったりするから、自分の心の中で何とか解決しようとしているけど、馬が「困ったときには、友だちと一緒にいなさい」と言ったことが心にささりました。今日のお話を聞いて、人に相談することの大切さがよくわかりました。これからは、悩みごとなどがあったら、人にちゃんと相談して解決できるようにしたいと思いました。(3年生)
- お話の中で、「今までにあなたが言った中で、いちばんゆうかな言葉は？」と、ぼくが聞いたとき、馬は「たすけて」って言ったことの意味がさいしょはわかりませんでした。でも、校長先生のお話を聞いて、学校の合い言葉の「自分も幸せみんなも幸せ」に近づくヒントを見つけました。1つ目は、助けを求めていいということです。助けを求めるには勇気が必要だけど、言う価値があるんだと学びました。(3年生)
- 馬に「強かったのはいつ？」と聞いたとき、「弱さを見せたとき」と言っていたのが、とてもびっくりしました。それに、ゆうかな言葉で「たすけて」と言うのは、弱虫かと思っていたけど、その言葉がゆうかんだとわかりました。(2年生)
- 「自分も幸せみんなも幸せ」とは、誰かが助けてほしければ助け、そして自分と他の人を比べないということだと思いました。・・・これまで「自分は不幸せみんなは幸せ」と考えていたので、まわりを助け、自分を苦しい思いにさせないことが「自分も幸せみんなも幸せ」になるんだと思いました。(6年生)
- 一番の勇敢な言葉が「助けて」だということに感動しました。そして、まずは自分に優しくする。すると相手にも優しくなれる。自分が幸せなら、自分がそう感じたことを相手にもしてあげることができる。自他の幸せのためにがんばりたい。(6年生)

以下のようなコラム(抜粋)も紹介します。

…(略)表現というと、「自分独自の考えや予想発見などを表現する」「知っていることや理解したことを、言葉やテストで表現する」「できるようになったことを、言葉や体で表現する」などが考えられます。大人は、子どもが成果を表現することのみを「表現力」と捉えてしまいがちですが、一番大切なのは、「分からない!」「できない!」「教えて!」と言える表現力であると私は考えます。

これから先の人生を生きていく子どもたちは予測困難な社会を生き抜く力が必要と

されています。未知の出来事に触れたとき、すべて自分の力で解決できれば、それは素晴らしいことですが、それが難しい状況に陥ることも必ずあります。そんな時「～が分からないので教えてください」「何回もやり直しているのですが、どうしてもできません。助けていただけますか」と相手に伝える力は大切な表現力です。

「分からない、できない」と言える表現力を伸ばすには、周囲に伝えて助けてもらった体験が重要になります。子どもの教育においてその体験を積み上げるためには、基盤となる集団が開かれている必要があります。

所属する集団が醸し出す雰囲気（「風」）が重要であると思います。子どもたちが自分を披歴でき、互いが信頼関係で結びついていくために、子どもたちにとって居心地の良い開かれた関係づくりは、教育活動を充実させる重要な基盤であると思っています。…

「助けて」と言える関係づくりに向けて、本校では、今後も協働的・対話的な授業づくりを大切にしていきます。また、聴き合う関係づくり、ちがいを個性・多様性を認め合える関係づくりを通して、子どもたちが見方や考え方を主体的に広げ合い、高め合い、学びを深め合っていく…そんな学校づくりを目指していきます。引き続き、保護者の皆様方のご理解とご協力のほど、よろしく願いいたします。